



声明発表とシンポジウム 東京中央郵便局庁舎保存問題から大阪中央郵便局庁舎の課題へ

モダニズム建築・存亡の危機をこえるために

(社)日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部及び保存問題委員会は、1999年文化庁長官あてに「東京中央郵便局の重要文化財指定に関する要望書」を提出して以来、日本郵政関係者や所轄する総務省(旧郵政省)などへ、近畿支部と連携し東京・大阪両中央郵便局の重要文化財指定や保存活用を繰り返し要望してきました。

建築家吉田鉄郎の設計した東京中央郵便局庁舎は、モダニズム建築の水準点であり、大阪中央郵便局庁舎はさらにその完成度を深めた建築です。しかし東京中央郵便局庁舎は、大部分を解体して高層化する工事が進捗しており、大阪中央郵便局庁舎も今後の展開が懸念されます。これらの一連の動向から見てくるのは、都市景観の保全を理由に、建築の内部空間を視野に入れず、外観保存のみに重点を置こうとする社会通念と都市政策です。辛うじて保存されても残るのは外壁のみで、内部空間は失われてしまうという、モダニズム建築の新たな存亡の危機に対し、(社)日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部及び保存問題委員会は、『声明』を発表いたします。

この声明を受けて各分野の方にパネリストとして参加いただき、建築と人、建築と都市との関わり、また開発と保存の狭間における建築家のあり方について、様々な視点から意見を取り交わすシンポジウムを開催します。

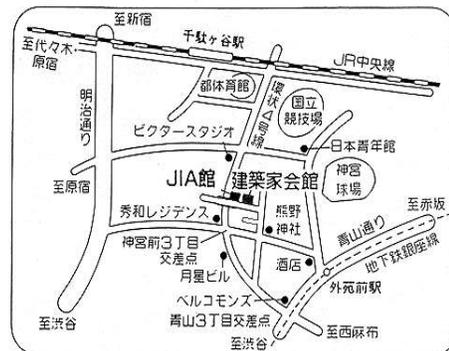
お誘い合わせの上、ご参加くださいますようご案内します。

日時 2009年7月17日(金) pm6:30~8:40
会場 建築家会館一階ホール(当日会場にて受付)
資料代 1000円
主催 日本建築家協会(JIA) 関東甲信越支部
+ 保存問題委員会

司会 篠田義男(建築家・JIA保存問題委員会元委員長)
声明発表 和田昇三(JIA保存問題委員会委員長
足利工業大学教授)

問題提起 兼松紘一郎(建築家・JIA保存問題委員会WG主査・DOCOMOMO Japan 幹事長)

パネリスト 鈴木博之(青山学院大学教授・東京大学名誉教授・DOCOMOMO Japan 代表)
清野由美(ジャーナリスト)
室伏次郎(建築家・神奈川大学教授)
兼松紘一郎(建築家)



<会場：地下鉄：銀座線外苑前駅より徒歩約5分 JR線：総武線千駄ヶ谷駅より徒歩約15分>

問い合わせ 日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部事務局 03-3408-8291 担当菊池・清宮